

ストーリー・リスニング: 簡単な紹介

メイソン・ベニコ
四天王寺大学短期大学部 名誉教授

ステイーブン・クラッシュェン
南カリフォルニア大学名誉教授

伝統的な外国語の授業では、物語の中で使われる語彙や文法は意図的に文の中に配置されます。物語は生徒がこれらの項目を学ぶのを助ける手段です。単語のリストと文法は通常、実際の物語が読まれたり、語られたりする前に学生に提供され、物語が話されたり読まれたりした後は、学生がその単語を覚えて「習得」できるように練習問題が提供されます。

対照的に、ストーリーリスニング (SL) では、物語を理解し楽しむことに重点が置かれます。教師は、物語の中から生徒が知らないかもしれないと思われる単語を選択することで、物語をより理解しやすくし、理解を補助する方法 (Krashen, Mason, & Smith, 2018) 使用して物語を語る時に、これらの単語の意味を明確にします。たとえば、絵を描く、言い換える、簡単な翻訳を与える、聞き手が理解できる言葉を使って説明する、などです。教員の目標は、絵を描いて心象が心に浮かびやすくし、物語の中の理解できない言葉を理解できるように言い換えて、興味深い詳細を追加し、物語がどのように展開するのかを理解させることです。

Comprehension-Aiding Supplementation (CAS) は、理解を捕捉するために使われます。生徒が新しい単語を覚えたり、意識的に「記憶に残したり」するのを支援したり奨励したりすることを目的としたものではありません。これまでの研究では、CAS を使用すると、従来の方法論よりも優れた長期的な語彙習得が得られることが示されています。たとえ目標が語彙知識であっても、CAS によって強化された物語を聞くことに時間を費やす方が効果は高いです。新しい単語を聞いたり読んだりしながら意識的に「学習」しようとする、理解が妨げられ、言語の成長が遅くなる可能性があります。

ストーリー・リスニングでは、特定の単語が物語の中に登場するかどうかを確認したりしません。物語の中に、私たちが生徒に教えたい言葉が「種として含まれている」わけではありません。むしろ、私たちはストーリーを伝えます。CAS と呼ばれる補助を利用してたくさんの物語を学生に語ると、「適切な言葉のインプット」(Krashen, & Mason, 2020) が、頻繁に使われる単語もそうでない単語も自然と含まれていて、言語習得をサポートします。(証拠については、Walter, 2020; McQuillan 2019 を参照)。

完全な習得 (完全な意味と、新たに獲得した言語を容易に生成する能力) は、一度だけ触れただけで得られるものではなく、徐々に蓄積されていきます。取得者が理解可能な文脈で新しい単語や表現を見たり聞いたりするたびに、そのほんの一部が取得されます。ただし、十分な量の投入があれば、このわずかな増加でも大幅な獲得につながるのに十分なのです。

Mason, B., & Krashen, S. (2020). Story-Listening: A brief introduction. *CATESOL Newsletter*, July, 53(7).
https://www.catesol.org/v_newsletters/article_158695931.htm